

【活用にあって】

ワークシートNo.146「ギフチョウ」では、チョウの育ち方を学習しました。今回は、バッタです。チョウの育ち方が「卵→幼虫→蛹→成虫」という順序でしたが、バッタは「卵→幼虫→成虫」の順です。変態の仕方の違う昆虫を比較し、その差異点について考えることがポイントです。

バッタの住みかは草むらです。体の色と似ているので、隠れ場所になります。ところが、記事で紹介されているバッタはピンクです。草むらにいても、目立ってしまいます。なぜでしょう。疑問がわきますね。

2020年8月13日付中日新聞にも、ピンクのバッタが紹介されています。次ページに掲載します。

解答例

問1：よう虫^{ちゅう}

問2：バッタやトンボは、さなぎになることがないところ。

ピンクのバッタが飛んだ



犬山市善師野台の会社員
高橋光一さん(五三)方でピン
ク色のバッタが見つかり、
大事に飼われている。写

真。写真を見た名和昆虫博
物館(岐阜市)の名和哲夫
館長(六五)は「ショウリヨウ
バッタの幼虫で、大きさか
らすると雌だろう。極めて
珍しいわけではないが、ざ
らに見られるわけでもな
い」と話している。

五日に庭で草むしり中に
長女のおちゃん(三三)が「ピ
ンクが飛んだ」と声を上げ

たので気付いた。体長七センチ
ほどで、「ピンクのバッタ
がいると聞いたことはあつ
たが、見たのは初めて」と
妻昭子さん(四三)。珍しいの
で透明な昆虫ケースで飼っ
ている。

名和昆虫博物館には年
三、四件、ピンクのバッタ
の情報が寄せられる。高橋
さん方のバッタについて、
名和館長の見立ては「その
うちもう一回、脱皮するで
しょう」。新しい翅(はね)がそれ
でもまだピンクなら、珍し
さの度合いがぐっと上がる
という。

(三田村泰和)

犬山 高橋りおちゃん見つける